

第6回 計算力学シンポジウム

主催

日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計分科会

共催

可視化情報学会、CAE懇話会、日本応用数理学会、日本機械学会、日本計算工学会、日本計算数理工学会
日本計算力学連合、日本シミュレーション学会、アジア太平洋計算力学連合、国際計算力学連合

協賛 自動車技術会

(一部依頼中)

開催趣旨 第 I 部では、我が国を代表する計算力学関連学会が一堂に会し、各学会を代表する若手が最新の成果を披露する日本における広い分野の計算力学研究と活用の成果をまとめて聞くことができる貴重な機会です。第 II 部では、現在日本学術会議において作成が進められている「計算力学参照基準」について、検討状況を紹介するとともに議論を行い、その結果をフィードバックし「計算力学参照基準」づくりに活かして行くことを考えています。多数の方のご参加を期待しています。

日時：平成28年12月5日(月)10:00~17:30

会場：日本学術会議講堂 (東京都港区六本木7-22-34, 東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5出口)

参加費：無料

申込方法：必要事項(氏名・所属・電話番号・E-mailアドレス)をご記入の上、12月2日までにシンポジウム事務局 [cm6-symp\[at\]save.sys.t.u-tokyo.ac.jp](mailto:cm6-symp[at]save.sys.t.u-tokyo.ac.jp) までお申し込みください(お手数ですが[at]を@にご変換ください)。また、会場での当日受付も承っておりますのでお気軽にお越しください。

次第

各講演時間には10分のディスカッションタイムを含みます

総司会：吉村忍 (日本学術会議連携会員 計算科学シミュレーションと工学設計分科会委員長、
東京大学大学院工学系研究科 副研究科長、システム創成学専攻 教授)

10:00 開会の辞

矢川元基 (日本学術会議連携会員、原子力安全研究協会会長)

第 I 部 若手研究者による講演 (10:10-15:40)

10:10-10:40 講演 1 (日本計算数理工学会)

奥村大 (大阪大学大学院工学研究科機械工学専攻 准教授)
「ゲル材料の膨潤誘起不安定解析」

10:40-11:10 講演 2 (CAE懇話会)

内藤正登 (住友ゴム工業(株)研究開発本部研究第一部 主査)
「次世代高性能タイヤ開発のマルチスケール・シミュレーション」

11:10-11:40 講演 3 (日本機械学会計算力学部門)

山田崇恭 (京都大学大学院工学研究科機械理工学専攻 助教)
「トポロジー最適化の新展開」

11:40-12:10 講演 4 (日本計算工学会)

加藤準治 (東北大学大学院工学研究科土木工学専攻 准教授)
「マルチスケールトポロジー最適化と積層造形への展開」

12:10-13:40 昼休み

13:40-14:10 講演 5 (日本計算力学連合)

大西有希 (東京工業大学大学院システム制御系 助教)
「四面体を用いた平滑化有限要素法による大変形解析の最新動向」

14:10-14:40 講演 6 (日本シミュレーション学会)

後藤和哉 (合同会社PEXProCS 代表)
「大規模アセンブリ構造解析のための多点拘束条件処理手法」

14:40-15:10 講演 7 (可視化情報学会)

八木佐也香 (日本電信電話(株)アクセスサービスシステム研究所 研究員)
「Storylineを適用した連続数値型時系列データ可視化の一手法」

15:10-15:40 講演 8 (日本応用数理学会)

高安亮紀 (筑波大学大学院システム情報工学研究科リスク工学専攻 助教)
「常微分方程式の爆発解に対する数値的検証法」

15:40-16:00 休憩

第 II 部 パネル討論「計算力学参照基準について」(16:00-17:20)

パネラー 萩原一郎 (日本学術会議連携会員、明治大学 特任教授、先端数理学インスティテュート 所長)

越塚誠一 (日本学術会議連携会員、東京大学人工物工学研究センター センター長、工学系研究科システム創成学専攻 教授)

平野徹 (ダイキン情報システム(株) 顧問、NPO法人CAE懇話会 理事長)

17:20 閉会の辞

萩原一郎 (日本学術会議連携会員、明治大学 特任教授、先端数理学インスティテュート 所長)